

ふれあい曾山医院

志筑1391-9
Tel:62-5566

2019年5月号
(第120号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



谷岡・棟近
西岡・福井
隅田・太田
山内・廣岡

アルツハイマー型認知症

認知症をひきおこす病気は多数あります。アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症が『三大認知症』といわれますが、なかでもアルツハイマー型認知症は加齢と共に激増してくるのが特徴です。

症状

加齢に伴い、物忘れが目立ってくるというのは多くの高齢者が感じる事です。加齢による物忘れは「お昼ご飯に何を食べたか思い出せない」「など出来事の一部を忘れま

す。しかし、アルツハイマー型認知症の場合には「何を食べたか？」では



なく食べたことそのものを忘れてしまっています。何度も同じ質問を繰り返す。自分が忘れられるということを受け入れられないため、物を盗られたと解釈する。判断力が低下するため毎日の料理が今までのようにできない。季節や場所に合わない服装をする。漠然とした不安感、落ち着かない気分があり当てもなく歩き回ったりする。つまり出来事の全体を忘れてしまっています。

アルツハイマー型認知症は、脳内にアミロイドβ

やリン酸化タウという異常たんぱく質が蓄積し、周辺の神経細胞が損傷していくことによって起こります。これらの脳の変化をひとりで「老化性病変」といいます。老化性病変は、認知症がみられない高齢者の脳内でも、加齢とともに増加してみられてきます。

予防法

アルツハイマー型認知症は、脳の老化現象として理解すると、人は歳をとると誰もが認知症になるということを意味します。何か症状が出たら早く病院を受診し、認知症と分かることでご本人やご家族の不安や混乱が解消できます。

認知症は進行していく病気の為、お薬による治

療で認知機能の低下を防ぐことは重要です。また、少しでも早く病院へ行くことが病気を悪化させないために大切なことです。

しかし認知症が初期の場合、病気に対する不安や加齢による一時的なものと考えて、病院へ行き

たがらないこともありま

す。そういう時は娘、息子様から「元気で長生きしてほしいので早めに受診して」配偶者の方でしたら「わたしの検診に付き合ってください」と優しく促してください。

認知症のご本人が、何

度も同じことを繰り返したり、言ったりする行為は近くにいらっしゃるご家族に様々な負担をかけ、イラ

介護保険制度

持ちにゆとりを持てる暮らしを維持してください。介護保険制度とは65歳以上の方が加齢にともない介護に必要な様々なサービスを1割の自己負担で利用できるものです。介護保険制度を利用するには、まず市区町村の窓口で本人やご家族が申請を行う必要があります。その後、どの程度の介護が必要かを決める『要介護度』が決まりそれに応じた介護保険制度を利用できるようになります。何かご不安を感じたら、一度かかりつけ医や、市の窓口にご相談してみてください。

介護のために「仕事を辞めた」「やりたい事を止めた」などすべてをあきらめてしまうと介護に費やせる時間は増えますが、心のゆとりは減ってしまいます。ご家族が笑顔で安心して暮らしている中で一緒にいることが、ご本人にとっては何よりも大きな安心になるのです。介護保険制度を利用して、時間、費用、気

(看護師
丸橋 節子)

